2026

京都府立向日が丘支援学校

自分らしく　人とともに　今を生きる力を　　Since1967

校長挨拶

本校は今年度、新たに「Vision・Purpose・Value（VPV）」を設定しました。「違いをよさに変え、自分らしさが輝く」という学校文化を礎に、めざす学校像（Vision）、学校の存在目的（Purpose）、日々の教育活動で大切にする価値観（Value）を明確にしたものです。引き続き、一人一人の可能性を引き出し、自分らしさを発揮しながら学び合い、未来へつながる力を育みます。地域とともに歩み、共生社会の実現をめざしてまいります。

また、令和6年度より取り組んでいるプラン「Go to R9」（見開き内掲載）は、令和9年度からの新たなプラン「This is New Mukougaoka」へとつながっていく計画です。

今後とも、本校の教育活動への御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

校長　飯田　英美子

新校舎について

昭和42年に長岡京市井ノ内朝日寺の地に開校した本校は、老朽化による建て替えを行うことになり、令和5年8月に長岡京市今里南平尾の旧済生会京都府病院の建物跡に仮移転し、この地域の皆様にあたたかく出迎えていただきました。埋蔵文化財発掘調査も終わり、令和7年3月から建設工事が始まっています。令和9年夏には長岡京市井ノ内朝日寺の地で、長岡京市の共生型福祉施設やインクルーシブ公園に隣接する新しい校舎が私たちを待ってくれています。新しい向日が丘支援学校は、長岡京市の共生型福祉施設構想との連携の中で、多様な人と人とのつながりの拠点となる学校として生まれ変わります。

小学部　学びとふれあいの楽しさに出会う

小学部は、学校教育のスタートとして、学習や生活の基礎的な力を伸ばしていくことを大切にしている学部です。

各教科等を合わせた指導の「遊びの指導」と「生活単元学習」を中心に、「やってみよう」「楽しい」「できた」という気持ちや学習に対する意欲を育てていきます。

また、コミュニケーション力を付けるためにも、校内から地域社会へと授業の範囲を広げ、多くの人との関わりが喜びとなるような学習に積極的に取り組んでいます。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	国語	算数	自立活動		
3	遊びの指導			生活単元学習	
4	生活単元学習		日常生活の指導	生活単元学習	
給食	日常生活の指導				
5	音楽	体育	日常生活の指導 下校	特別活動	図画工作
6	日常生活の指導			日常生活の指導	

例：小学部高学年教育課程

中学部　人との結びつきや関わりを深め、可能性を広げる

中学部は、思春期における様々な変化とうまく付き合い、中学生らしさや自分らしさを大切にし、大きく成長する学部です。

「分かる」「できる」という手応えから、分かったことやできたことをいろいろな場面で発揮する意欲につなげ、学校教育目標を実現する授業を実施します。

「生活単元学習」を中心に、地域社会と連携・協働した授業を積極的に展開し、地域社会の中で人との結びつきや関わりを深め、生徒達の力や可能性を最大限に発揮していきます。

また、集団の中での役割や責任等、進路を見据えた観点を大切にしながら、「今」を大切にし、共生社会の担い手を育てます。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	自立活動	数学	保健体育	作業学習	自立活動
3	国語	生活単元学習		作業学習	国語/数学
4	生活単元学習			作業学習	総合的な学習の時間
給食	日常生活の指導				
5	保健体育	美術	日常生活の指導 下校	特別活動	音楽
6	日常生活の指導			特別活動 日常生活の指導	日常生活の指導

例：中学部２年生教育課程

高等部　地域とともに生きていく力を培う

〈健康キャリアコース〉

健康維持や生活の質の向上を大切にしながら、暮らしの中で自分のもてる力を発揮し、身近な人との協働の中で健康で豊かな生活を送ることができる力を育成します。

〈生活キャリアコース〉

日常生活における身辺自立の力と自らの思いを伝える力を高め、就労に向けた力（働くために必要な力）を付けながら、地域社会の中で自分らしく、自己実現していく力を育成します。

〈職業キャリアコース〉

コミュニケーション力を高め、仲間と共に切磋琢磨し、自己の生き方を探究することから卒業後の企業就労をめざします。また、地域社会を構成する一員として、様々な活動に積極的に参画する力を育成します。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	作業学習	自立活動			作業学習
3		保健体育	生活単元学習	音楽/美術	
4		保健体育	生活単元学習	音楽/美術	
		国語	特別活動	数学	
給食	日常生活の指導				
5	作業学習	総合的な探究の時間/道徳	日常生活の指導 下校	総合的な探究の時間/特別活動	作業学習
6	日常生活の指導			日常生活の指導	

例：高等部生活キャリアコース教育課程

主な年間行事予定

4月
○始業式
○入学式
○たけのこほり(小)

5月
○新入生歓迎会
○現場実習(高3年)

6月
○学校説明会
○えのほんひろば
○進路相談(高)
○現場実習(高2年)

7月
○七夕まつり
○1学期終業式

8月
○2学期始業式
○現場実習(高3年)

9月
○宿泊学習(小・中・高)
○ふれあい・心のステーション(販売・高)

10月
○修学旅行(小・中・高)

11月
○学校祭☆Muko-Fes☆
○高等部進路相談
○現場実習(高2年)

12月
○冬の祭典(中)
○ほっこりんぐ(販売・高)
○2学期終業式
○校内実習(高1年)

1月
○3学期始業式
○現場実習(高1年)

2月
○入学説明会
○入学者選考(高)
○卒業生を送る会
○ほっこりんぐ(販売・高)

3月
○ピアノコンサート
○卒業証書授与式
○修了式

たけのこ掘り

えのほんひろば

七夕まつり

ふれあい・心のステーション(大丸京都店)

修学旅行中学部(ナガシマスパーランド)

学校祭 ☆Muko-Fes☆

冬の祭典中学部

ほっこりんぐ(販売)高等部

ピアノコンサート

進路指導について

進路指導は毎日の生活の中で行なわれています。「進路」というと卒業後の行き先のことだけと考えがちですが、卒業後の生活そのものをどう過ごすのかという「生き方」の指導と捉えています。

24時間の生活の中で、日中に仕事をするのか、どんな活動をするのかを決めることと同じくらいその他の時間の過ごし方は重要で、いかに「自分らしく」生きて行くか、という問いに直結することだと考えます。

日々の学校の生活の中で、「好き」「嫌い」を理解し、選び、伝え、やりたい気持ちを大きく育てることが進路指導に通じています。

高等部になったら、職業現場における実習等を繰り返し、実際に働く体験をしながら、卒業後の進路先を一緒に考えwell-beingな暮らしに向かっていきます。

［令和7年度卒業生の進路先］

主たる利用等事業	事業所(所在地)【作業内容】	人数
生活介護事業	A(向日市)	2名
	B(島本町)	1名
	C(長岡京市)	1名
	D(大山崎町)	3名
自立訓練事業	E(島本町)	1名
就労継続支援B型事業	F(長岡京市)	2名
	G(大山崎町)	1名
	H(長岡京市)	1名
	I(大山崎町)	1名
就労移行支援事業	J(京都市)	1名
就労継続支援A型事業	K(長岡京市)	1名
	L(向日市)	2名
	M(京都市)	1名
企業就労	N(京都市)【スーパー:品出し等】	1名
	O(京都市)【特例子会社:清掃・軽作業等】	1名
	P(京都市)【スーパー:野菜カット等】	1名
	Q(京都市)【卸業:ピッキング等】	1名
	R(向日市)【小売:洗車】	1名
	S(大山崎町)【高齢者施設:ベッドメイキング等】	1名
未定		1名
総計		25名

卒業生にインタビュー

第2乙訓ひまわり園　つむぎ　　令和7年度卒業生　O.T さん と お母様　と 職員の方

Q.今されている仕事を教えてください。
A.室内では、季節ごとの創作活動をしています。
外での活動は、畑作業で野菜を作っています。水やりや、土づくりを頑張っています。

Q.学校生活で思い出に残っている活動はなんですか？
A.修学旅行で他のクラスの友達と部屋に泊まって、一緒に過ごしたことです。

Q.後輩達へのメッセージをお願いします。
A.学校で培ったことは、卒業後の職場での生きる糧となります。
自分に合った楽しい職場を探してください。

暮らしランプ　Sparkle　　令和7年度卒業生　H.S さん と 職員の方

Q.学校生活で頑張ったことは何ですか？
A.作業学習で農園芸班でねぎづくりをしたことです。体力がつきました。

Q.学校生活で楽しかった思い出を教えて下さい。
A.卒業式での証書授与の練習を頑張ったことです。

Q.今されている仕事を教えてください。
A.ドリップコーヒーのパック詰め、プリンのシール貼り、 ショートブレッドの型抜きです。

Q.後輩達にメッセージをお願いします。
A.コーヒーを飲みに来てください。ショートブレッドやプリンもあります。

洛和会特別養護老人ホーム　ヴィラ大山崎　　令和7年度卒業生　K.A さん

Q. 今されている仕事を教えてください。
A. 9時から17時まで働いています。休憩時間は昼休みの45分間です。
仕事の内容は施設の各フロアのごみ回収や床掃除、利用者さんのシーツの交換等です。

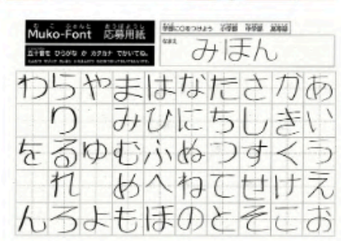
Q. 仕事が休みの日は何をしていますか？
A. 服が好きなので、いろいろなお店の服を見に行ったりしています。
お給料で、自分が好きな服を買うのが楽しみです。

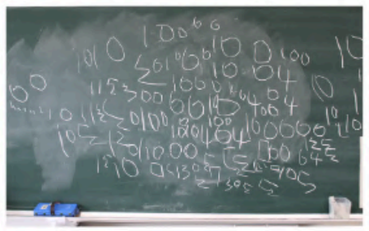
Q. 学校生活で楽しかった思い出を教えて下さい。
A. 学校祭でクラスで頑張って練習して踊った嵐のHappinessのダンスです。

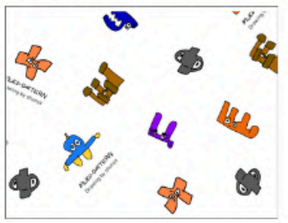
Q. 後輩達にメッセージをお願いします。
A. 職場実習に行ったときは、最初は緊張すると思うけれど、自分から挨拶したり、
分からないことがあったらなんでも聞いて、頑張ってください。

MUKO-FONT　MUKO-PATTERN™

子ども達が、日常生活の中で何気なく描く文字やイラストはCreativityにあふれています。本校では、それらをデジタルに取り込みデザインにするインクルーシブプロジェクトを行っています。ホームページや職員の名刺、地域への掲示物、製品等々地域社会とのつながりを子ども達のCreativityで彩っていきます。

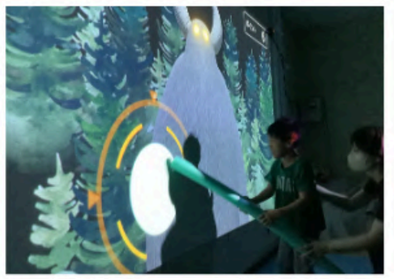






デジリハ ×向日が丘支援学校

デジリハ（ Digital Interactive Rehabilitation System)は、センサーとデジタルツールを使ったインタラクティブなコンテンツで全国の特別支援学校で取り組まれており、昨年度より本校でも導入をいたしました。デジリハを活用することで、子どもの「ワクワクする」「もっとやってみたい」「挑戦したい」「できた」を促し、主体性を育む授業を展開していきます。



「デジリハ」は、株式会社デジリハが開発している障害児者向けデジタルリハビリツールです。
「デジリハ」はDigital Interactive Rehabilitation System を意味する、センサーによって起きるインタラクションを活用した新しいリハビリツールです。

子どもも、私も、成長できる学校

Go to R9

仮移転地から新校舎へ学びの場を移す”R９”（令和９年度）に新たな教育を創造するために
全教職員の総力を結集して取り組む令和６年度から令和８年度までの３年間のプラン（最終年度）

学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な児童生徒に自分らしい社会貢献を実現する力を育むことを目指した授業改善、教育課程改善の推進

地域社会と連携協働した教育活動の積極的展開による地域におけるインクルーシブ教育の推進及び共生社会の形成への積極的な貢献

一人一人の教職員が、常に新しい価値観・取組で溌剌、颯爽と子ども達のために働く学校経営の推進

テーマ１
各教科等の見方・考え方

「やってみたい」を 引き出す学び
対話で育つ授業力
授業づくり＝ 根拠＋Creative
小中高共通の観点 ＝つながるカリキュラム

R7では、これまでの授業改善研究を土台に、根拠のある授業づくりをめざした授業改善シートの活用、学ぶ内容の偏りや脱落を防ぐ学習標準プランの完成により、長期的に取り組む授業改善研究の骨組みを整えました。今後これらをさらに活用し、学年や学部を越えて学びがつながり、学びと生活の接続が見通せる教育課程づくりを進めます。そのために、各教科等の「見方・考え方」を生かした授業実践交流を計画的に進めます。また、教員同士が対話を重ねて授業を見合い、学び方のポイントを共有することで、子ども達が「やってみたい！」「面白そう！」と感じられる学びを日常化していくことをめざします。

To Do

- [ ] 各教科等の「見方・考え方」を生かした授業実践交流の推進
- [ ] 授業改善シートと学習標準プランの活用による、「根拠＋ Creative」の授業改善の継続

テーマ２
共生社会の担い手

「自然なつながり」のデザイン
地域とつくる学びの場
福祉との共創（プレ連携）
共生社会の担い手づくり

R9以降本校にさらに期待される役割を意識し、R5からの仮移転期に育ててきた交流及び共同学習をさらに広げ、長法寺小学校との取組をモデル化し、他校にも展開できる形に整理していきます。地域と協働した授業も継続・発展させ、地域の方々と一緒に学ぶ場を増やしていきます。共生型福祉施設とのプレ連携を実務レベルで具体化し、また地域支援センターの役割を再整理して質の向上を図ります。本校に勤務する卒業生等の姿から、子ども達が共生社会の担い手として、多様な進路や役割を自分らしく選べる力を育てるとともに、本校の実践を教育・福祉関係者や行政等関係機関へ分かりやすく発信していきます。

To Do

- [ ] 長法寺小との交流及び共同学習の深化とモデル化
- [ ] 地域協働による学びの発展
- [ ] 共生型福祉施設とのプレ連携と協働基盤の形成
- [ ] インクルーシブ教育の推進と対外発信

テーマ３
Creativity

Mind Change で変わる 教師像
「おしえない」 から始まる学び
子どものCreativityの扉が 開く授業づくり
「好き」から始まる学び

子ども一人一人の力を最大限に引き出すために、「Creativity」や「おしえない授業（＝学び方を教える授業）」を核にした実践をさらに広げます。教師は、状況に応じてティーチャー／ファシリテーター／伴走者／コーディネーターとして関わり、ICTとアナログの良さを組み合わせて、「デジタルでリアルな学びを支える」授業設計に取り組みます。その基盤として、MindChangeを促す研修を継続し、教員同士が学び合い、引き出す教育の実践を共有・加速していきます。また「好き」を学びにする「むこうがおかアカデミー」をきっかけに、向日が丘らしい未来の学校の姿を考えていきます。

To Do

- [ ] 引き出す教育（CREATIVITY・おしえない授業）の実践促進
- [ ] MIND CHANGEを促す研修の継続

テーマ４
自立活動の充実

「流れ図」が導く個別最適
「自立活動の時間における 指導」の深化
「六区分」の窓で見る 多面的理解
チームで育てる自立の力

R8では、特別支援学校の専門性の中核である自立活動をより確かなものにします。「流れ図」を用いた実態把握→目標設定→指導→評価の流れを継続・精緻化し、「個別の指導計画」の質を高めます。主体的に自己の力を発揮し、よりよく生きていこうとする児童生徒を、担任を中心に、自立活動支援担当とも協力して育てていくために、自立活動支援担当は有する専門性によりスーパーバイズする役割を一層意識します。子どもが自分の力を理解し、生活や学習の場面で力を発揮できるよう、六区分の窓を生かした多面的な見取りをチーム全員で実施し、支援していきます。

To Do

- [ ] 自立活動「流れ図」作成の継続 と「個別の指導計画」の質の向上
- [ ] 「自立活動の時間における指 導」の実践交流と専門性共有
- [ ] 自立活動支援担当による スーパーバイズ

テーマ５
人材育成と働き方改革

コンプライアンスの徹底
学びの変革と学校の在り方の変革
新校舎の未来をデザインする
行動指針と評価でつくる学校文化

R9に始まる新しい学校生活を具体的に思い描けるよう、未来像を可視化する取組を進めます。R8は教育課程と学校運営の両輪における人材育成を着実に整えます。まず、学校の求められる役割に沿った「あたらしい教育課程」の整理・明文化を進め、示します。教職員の業務については、業務整理のサイクルを構築し、授業づくりと子どもと向き合う時間を確保します。さらに、新校舎への引っ越し計画（スケジュール・作業・役割）をわかりやすく共有し、児童生徒と教職員が見通しをもって準備できる体制を整えます。併せて、学校として大切にする行動の考え方（行動指針）と、取組を確かめるポイント（評価の視点）の平易な整理を進め、それらを教育課程と連動させます。

To Do

- [ ] 新校舎移転に向けた計画共有と未来像の可視化
- [ ] 行動指針・評価の視点の明確化と教育課程との連動

歴史

1966年(昭和41年)4月 - 京都府立養護学校開設準備室を設置
1967年(昭和42年)4月 - 肢体不自由養護学校として開校
1968年(昭和43年)1月 - 校舎完工記念式挙行
1979年(昭和54年)4月 - 養護学校義務制に伴い、乙訓管内の知的障害児を受け入れ
2007年(平成19年)4月 - 向日が丘相談・支援センター設置
2011年(平成23年)4月 - 京都府立向日が丘支援学校に校名変更
2023年(令和 5 年)9月 - 改築のため校舎を旧済生会京都府病院跡地に仮移転
【予定】2027年(令和 9 年)8月 - 校舎を新校舎に移転

全校児童生徒数 (令和8年5月1日現在)

小学部　104名　　中学部　50名　　高等部　60名　計 214名

制服(標準服)

標準服は中学部　制服は高等部　から

向日が丘相談・支援センター

発達や障害等、気になる子どもの生活や学習について相談に応じます。
授業づくり、教材活用、個別の指導計画等の作成、校内支援会議への参加、アセスメント等を行います。
また、特別支援教育に関する研修の企画・支援も行っています。
対象:乙訓地域在住の就学前～中学校卒業までの方・以下の対象府立高等学校に在籍の方
　山城高等学校　嵯峨野高等学校　北嵯峨高等学校　桂高等学校　洛西高等学校　向陽高等学校　乙訓高等学校　西乙訓高等学校
お問い合わせ:　muko-soudan@kyoto-be.ne.jp

Home Page

MUKOUGAOKA_S
Instagram

YouTube

JR長岡京駅[西口]または、
阪急長岡天神駅より　阪急バス
〇南平尾下車(学校前)
〇東台下車(学校まで徒歩3分)
〇太鼓山下車(学校まで徒歩4分)

京都府立向日が丘支援学校　〒617－0814　京都府長岡京市今里南平尾8－1　TEL　075－951－8361　FAX　075－951－8362